

スポンサーシップ

NAのミーティングに何度か足を運ぶようになると、スポンサーをもったらどうかという提案を受けるだろう。けれども新しい仲間には、スポンサーと言われてもなんのこともわからない。スポンサーってなんだろう。スポンサーをもつて、どうすればいいのだろう。そして何をやるのだろうか。スポンサーはどこへ行けば見つかるのだろうか……。このパンフレットは、そんな疑問にお答えできるように、スポンサーシップについて簡単にまとめて紹介している。

「NAの鼓動は、二人のアディクトが回復の分かち合いをするとき響き合う」とNAのベーシックテキスト『ナルコティクス アノニマス』に書かれているように、スポンサーシップとは、ひとりのアディクトがもうひとりのアディクトの手助けをすることだ。スポンサーシップは一方通行ではない。スポンサーもスポンシーも助けられる、愛情と思いやりにあふれたスピリチュアルな関係である。

どういう人がスポンサーになるのか？

スポンサーシップとは、個人対個人の関係であるため、ひとりひとりにとってその意味はみな違う。簡単にいうなら、NAスポンサーとはNAの回復のプログラムを自分の生き方に当てはめ、一対一の関係で仲間を積極的に支えていきたいという、ナルコティクス アノニマスのメンバーである。スポンサーとは何かと聞かれて多くのメンバーが思い浮かべるのは、NAの12のステップはもちろんのこと、ときには12の伝統や12の概念にも取り組む手助けをしてくれる仲間だというイメージだろう。スポンサーには、かならずしも親しい人を選ぶ必要はない。それよりも大事なのは、私たちが何でも打ち明けることができ、信頼できる相手だ。そして、ミーティングでみんなの前で分かち合うのは気おくれがするだけでも、スポンサーとなら個人的なことまで何でも話せるという相手だ。

人を信じられるようになるためにも、ステップに取り組むためにも、スポンサーとの関係が欠かせ

ません。私のこれまでの人生はしっちゃかめっちゃかだったけれど、そのことをスポンサーに話してみたら、スポンサーも、まるつきり同じだったといってくれました。そして、薬を使わずに生きる方法を教えてくださいました。

スポンサーは何をする人なのか？

スポンサーは、スポンサー自身の経験と力と希望をスポンシーと分かち合う。ある仲間はスポンサーのことを、愛情と思いやりにあふれ、何があってもスポンシーの話に耳を傾け、支えてくれる人だといっている。また、スポンサーの客観的な見方や、適度な距離の取り方が自分にはとても必要だという仲間もいる。そういうスポンサーからの正直で率直な指摘であれば、たとえ受け入れるのはなかなかむずかしくても、信じられるという。一方、もっぱら12のステップに取り組むためにスポンサーを頼りにしているという仲間もいる。

仲間が「なぜスポンサーが必要なんだろう？」と言った。するとその仲間のスポンサーが答えた「自分のうそを自分で見抜くなんてこと、なかなかできないからね」。

私たちにとってスポンサーシップが効果があるのは、NAが効果があるのと同じ理由だ。回復の道を歩むアディクトは、共通のきずな、アディクションと回復で結ばれているので、共感できることがたくさんあるからだ。スポンサーは、法的なアドバイスをしてくれるわけではないし、金貸しでもない。親でもないし、結婚問題のカウンセラーでもソーシャルワーカーでもない。また、専門的なアドバイスをするセラピストでもない。スポンサーは、12のステップの旅路を歩んだ経験をよるこんで分かち合ってくれる、回復の道を歩むひとりのアディクトである。心配ごとや疑問があったときにはそれを話してみると、スポンサーもまたスポンサー自身が同じような経験をしたことを話してくれるだろう。また、NAの本から、このところを読んでみるようにとか、そのことについて書いて

みるようにという提案があることもあるし、プログラムについての疑問に答えてくれることもある。NAにつながったばかりなら、プログラムのことで私たちがとまどっていること、たとえばNAで使われている言葉や、ミーティングのやり方、サービスの仕組みといったことから、NAの原理とは何か、スピリチュアルな自覚めとはどういうものかということまで、私たちにわかるように説明してくれるだろう。

ではスポンシーは何をするのか？

まず、スポンサーと定期的に連絡を取るようにと提案したい。電話だけでなく、ミーティングで会えるように手配しておくとい。スポンサーから、毎日とか、一日おきに連絡を入れるようにとか提案される場合もあれば、そういうことは一切気にしないスポンサーもいる。自分の身近な範囲でスポンサーが見つからなかったら、メールや手紙による方法などを利用してスポンサーシップをとることができる。どういう方法でスポンサーと連絡を取り合おうと、大事なことは、私たちが正直になること、そしてスポンサーの話に心を開いて耳を傾けることだ。

スポンサーが示してくれる指示や新しい考え方を信頼しています。たとえ何も言わなかったとしても、スポンサーの反応をみれば何をすべきかがわかります。ともかく、自分が思っていることを話してみると、別の見方を指摘してくれることがあります。だから、ともかく話してみるのだと思います。

スポンサーにとって自分は重荷なのではないかと考え、なかなか電話できないことがある。あるいは、スポンサーから何かお返しを求められるのではという不安があるかもしれない。だが、スポンサーシップによって助けられているのは、私たちがばかりか、スポンサーも同じだ。NAのプログラムでは、自分に無償で与えられたものを次の人に手渡していかないと、手からこぼれるといわれているが、私たちはそのことを強く信じている。私たちはスポンサーに

助けられている。そしてスポンサーも私たちを助けることでクリーンを続けることも、回復を深めることもできているのだ。

スポンサーを見つけるには？

スポンサーを見つけるなら、まずはだれかに頼んでみるのだ。頼むといっても、そんな簡単ではないだろう。そんなことはとてもできない、と思っている仲間がたくさんいる。アディクションの真つ盛りのあるころ、私たちはだれも信じると自分に言い聞かせてきた。だからだれかに、自分の話を聞いて欲しいとか、助けて欲しいと頼む経験などまったくなく、そんなことを考えるとかえって不安になる。とはいえ、大多数のNAメンバーが、回復のためにはスポンサーシップがないとむずかしいと話している。そこで勇気を振りしぼって頼んでみたら、相手から「できない」という返事が返ってくることもある。だとしてもへこたれない。断られたからといって、それは自分へのあてこすりではないのだ、と信じる心をもって受け止める必要がある。断ってきたのは、私たちのことを何も知らないからかもしれないし、今、かなり忙しくしているのかもしれないし、スポンシーがたくさんいるからかもしれない。あるいは、その仲間もつらい状況を乗り越えようとしているところかもしれない。だから自分の信じる心をもう一度確かめ、ほかの人に頼んでみる。

私は結婚相手を探すような気持ちでスポンサーを選びました。お互いの相性はどうだろうか？ 相手は何を期待しているか？ では私は何を期待しているのか、と。そして何でも話せる、心の広い人だということ大切にしました。

スポンサーを探すには、NAのミーティングに行くのがいちばんの近道だ。それ以外の場所だと、サービスミーティングやコンベンションといったNAのイベントだろう。スポンサーを選ぶにあたってメンバーたちが大切だと考えているのは、信じることを教えてくれる人か、プログラムに積極的に取り組んでいて、思いやりのある人かどう

かだ。また特にNAにつながったばかりの仲間の場合は、クリーントimeが自分より長いことを条件にしている。大まかにいったら、自分が苦勞したこととか、やり遂げることができたことに共感してくれるような、自分と似通った経験がある人を探すことだろう。また、同性のスポンサーのほうが共感しやすく、スポンサーシップの関係のなかでも安心できると多くのメンバーは考えているが、性別にはあまり重きをおく必要はないという仲間もいる。いずれにしても、私たちは自分のスポンサーを自由に選ぶことができる。ただし、ここで強く提案したいことがある。それは、スポンサーシップの関係を性的な関係にむすびつけてはならないことだ。性的な魅力に目がくらむと、スポンサーシップの本質から脱線し、お互いに正直に分かち合おうとしても、なかなかうまくいなくなるからだ。

クリーンにはなれたけれど、とてもこころ細くて、孤独でした。だから、だれかがそばにいてくれて安心できるのなら、なんでもしようと思っていました。そこで自然に求めたのは、そういう願いを満たすことでした。回復の足場を固めるにはどうすればよいかなど、頭にはありませんでした。そんな最初のころの私をだれも食いのしよとせず、支えようとしてくれた仲間たちの誠実に感謝の気持ちでいっぱいです。

複数のスポンサーを持つことについてはどうなのだろうか。実際に何人かのスポンサーを持っているアディクトもいるが、そうなってくると、いずれかのスポンサーが自分が欲しい答えや指示をくれないものかと、複数のスポンサーの意見の違いを利用するようなことがあるので、注意するよう呼びかけている。

スポンサーをもつ時期は？

ほとんどのメンバーが、できるだけ早くスポンサーを持ったほうがよいと考えている。けれどもなかには、時間を多少かけても、いろいろなところに顔を出し、納得できたうえで決めるべきだというメンバーもいる。何度もミー

ティングに出てみれば、どの人なら安心して話せるか、信じられるかがわかってくるからだ。スポンサーを探しているときに、だれかからスポンサーになろうかと言われた場合、お願ひしなければならぬという決まりはない。さらに忘れてならないことは、回復したてのところに手助けをしてくれたスポンサーが、それから数年後に私たちが求めていることにも応じられるとは限らないことだ。したがって、スポンサーを途中で変えることも自由である。

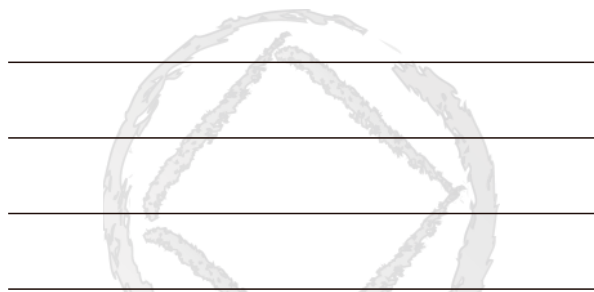
自分はまさに、おぼれるものはワラをもつかも思いでスポンサーを求めていた。おぼれてアップアップしている自分にすぐに手を差し伸べてくれるスポンサーが必要だった。

プログラムにつながったばかりなら、仲間のアディクトの助けと支えが必要だ。回復の道を歩んでいるアディクトに連絡先を教えてもらい、実際に連絡を入れて分かち合ってもらうのに、早すぎるということは決してない。NAのプログラムが効果があるのは、私たちが仲間どうし、お互いに手助けをしているからだ。私たちはもう、一人ぼっちで生きる必要はない。そして自分よりも大きな何かの一部なのだと感じられるようになる。NAに足を運び続けると、自分の居場所がやっと見つかったと実感させてもらえるのも、スポンサーシップのおかげだ。

このパンフレットに書かれたことのほかにもスポンサーシップについてはまだまだ疑問があるかもしれない。「正しい」答えはこれであって、こういう答えは「間違っている」ということはないが、NAでの経験は、国によっても、メンバーによっても、みな違うからだ、NAにはスポンサーシップについての本があって、スポンサーシップについてのさまざまな問題が、かなり突っ込んで書かれている*。

* 日本語版未発行

連絡先



Copyright © 2016 by
Narcotics Anonymous World Services, Inc.
複製、転載を禁じます

World Service Office
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
T 818.773.9999
F 818.700.0700
Website: www.na.org

World Service Office—CANADA
Mississauga, Ontario

World Service Office—EUROPE
Brussels, Belgium
T +32/2/646 6012

World Service Office—IRAN
Tehran, Iran
www.na-iran.org



本書(本文)は、ナルコティクス
アノニマスに承認された翻訳出版物です。

Narcotics Anonymous,    The NA Wayは
Narcotics Anonymous World Services, Incorporated.
の登録商標です。

ISBN 978-1-63380-003-8 Japanese 10/16

WSO Catalog Item No. JP-3111



Narcotics Anonymous®
ナルコティクス アノニマス

IP No. 11-JP

スポンサーシップ